

経済情勢に関する検討会合（第10回）概要要旨

（平成23年9月20日（火）10:21～10:33 於：官邸4階大会議室）

- 出席者：内閣総理大臣、内閣官房長官、経済財政政策担当大臣（兼国家戦略担当大臣）、金融担当大臣、財務大臣、経済産業大臣、日本銀行総裁（オブザーバー）、齋藤・長浜・竹歳内閣官房副長官、石田内閣府副大臣、大串内閣府政務官

【概 要】

○開会（古川経済財政政策担当大臣より：略）

○議題：円高への総合的対応策（仮称）の中間報告について（大串内閣府政務官より、資料1の説明：略）

○自由討議

（安住財務大臣）短期間でこういう骨子をおまとめいただいたことには敬意を表する。私も先般、白川日銀総裁とG7に出席し、為替の一方的に偏った動きへの懸念と、円高が震災からの復興、更には原子力問題から立ち直ってきて、予想より早いサプライチェーンの回復があるにもかかわらず、そうした上向きの経済予測を下振れリスクに持っていきかねない要因であることを説明してきた。あわせて、財政規律の問題もしっかりやることで、今言われている、財政恐慌などという新しい言い方が世界の共通語になるような状況なので、こういうことをしっかりと我々としても世界にきちっとメッセージを伝えることを言ってきたところだが、この短期間でまとめていただいた円高対策というものを、これから3次補正の中で、しっかりと、私としてはそれぞれの各省庁の施策に予算化して対応していきたいと思うので、しっかりと内容を受け取りたい。また、各省の御協力をお願いしたい。

（枝野経済産業大臣）リスクに負けない強靱な経済の構築については、経済産業省としてもしっかりとやっていきたいと思う。痛みの緩和のところで、中小企業に対する金融施策については、政策金融分野で直接、中小企業庁等にかかわる部分もあると思うが、最終的には民間金融機関に頑張っていただかないといけないので、我々のみならず、金融大臣にもよろしくをお願いしたい。

（自見金融担当大臣）民間金融機関は機関車だと思っている。ちょっと傾斜ができただけで上りきらないが、上り出したら強い。民間金融機関がきちっとフルに動けるようにしてあげて、公的な金融機関の後押しや税制の後押し、最終的には民間金融機関がどんどん動き出さなければならないことと思う。

○資料1の内容に関する検討会合としての合意（古川大臣より、資料の内容を検討会合の合意としてよろしいか問い、会場より「異議なし」と呼ぶ声あり。）

○総理締め括り挨拶

（野田内閣総理大臣）産業の空洞化を回避するということは、我が政権にとっては本当に一番重要な課題だと思っている。産業空洞化の回避は、いろんな観点からの議論があ

と思うが、昨日、大田区の中小企業、それから日産の横浜工場で意見交換をしたところ、何よりも急激な円高に対する対策をしっかりと講じてほしいというのが、一番の御要望であった。

今回、円高への総合的対応策の中間報告をまとめていただいたが、そういう御要請に応える第一歩だろうと思う。中小企業の資金繰りに対する支援、これは円高の痛みを緩和するという、とても大事な観点だと思う。それから、立地補助金の拡充は、昨日、日産の横浜工場を訪れた際にも、この立地補助金があったればこそ、電気自動車を開発し、この根底となるモーターの開発ができたとの話があった。ということは、この立地補助金を拡充することは、海外に出ようか、国内に留まろうかと迷っている企業が、踏みとどまるきっかけになりうると思うので、こういう拡充は必要だろうと思う。加えて、円高メリットの活用ということでは、まさに海外権益、あるいは資源の購入等を、メリットを生かしてどんどんと行い、外に何か出ることをとどめるのではなく、逆に海外に雄飛をして円高メリットを生かすということもあると思うので、そういうことをしっかり織り込んでいただいている中間報告だと思う。

古川大臣におかれては、この中間報告を踏まえ、与党ともよく御協議いただき、野党とも御議論いただいて、最終報告をまとめていただくように改めてお願いしたい。

○閉会（古川大臣より：略）

（以 上）